

山形県 自家用自動車

定価 1部・20円
会員の購読料は会費に含まれております
発行所
山形市大字漆山字行段1422
一般社団法人
山形県自家用自動車協会
電話023 (686) 3951
<https://www.y-jikayo.or.jp>
印刷/榎駒林印刷所

防ごう！大型車の車輪脱落事故 「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」実施中！

国土交通省は、大型車の車輪脱落事故防止のための緊急対策を策定し積極的に取り組んでいます。令和6年度の事故発生件数は120件(前年度比22件減)と依然として多くの車輪脱落事故が発生していることを踏まえ、大型車の車輪脱落事故防止(令和7年度緊急対策)を取りまとめ、脱落事故防止に向けた取組を推進しています。大型車の車輪脱落事故は、例年、10月以降の冬用タイヤへの交換時期に多く発生していることから、令和7年10月から令和8年2月末までを大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン実施期間として全国的に展開し、大型車の車輪脱落事故防止対策の徹底を図る取組を強化しています。

① 国土交通省は、大型車の車輪脱落事故防止のための緊急対策を策定し積極的に取り組んでいます。令和6年度の事故発生件数は120件(前年度比22件減)と依然として多くの車輪脱落事故が発生していることを踏まえ、大型車の車輪脱落事故防止(令和7年度緊急対策)を取りまとめ、脱落事故防止に向けた取組を推進しています。大型車の車輪脱落事故は、例年、10月以降の冬用タイヤへの交換時期に多く発生していることから、令和7年10月から令和8年2月末までを大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン実施期間として全国的に展開し、大型車の車輪脱落事故防止対策の徹底を図る取組を強化しています。

② 大型車のタイヤの脱着作業は、正しい知識を有した者に実施させること。

③ 著しく錆びたホイール・ボルトやホイール・ナット、ディスク・ホイールでは、適正な締付力が得られないためタイヤ脱着作業時に点検・清掃や潤滑剤の塗布を行って

④ 増し締めをやむを得ず車載工具で行う場合の実施方法を確認してお

⑤ タイヤ脱着作業時の作業確認及びタイヤ脱着作業後の日常点検を、車輪脱落事故防止のため「お・と・さ・な・い」のポイントを心がけ実施すること

◇ 国土交通省は、適切なタイヤ脱着作業や保守管理手順をいつでも確認できるように、解説動画を作成し公開しています。

に余裕を持った、計画的なタイヤ脱着作業を実施すること。

国土交通省

も、錆びが著しいディスクホイールや、ひっかかり等の異状がありスムーズに回らないホイールボルト及びホイールナットは、使用せず交換すること。特に、ホイールボルト、ナットが新品の状態から4年以上経過している車両は、入念に確認すること。

東北地域の令和6年度に発生した大型車の車輪脱落事故発生件数は、36件と前年度より5件減少したものの、9年連続全国ワースト1の状況が続いています。

これから冬用タイヤの交換作業時期となります。タイヤ交換時の適正な作業・一定距離走行後の増し締めのほか、日常点検を確実にを行い、車輪脱落事故防止に努めてください。

※大型車：車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス

過去5年間の車輪脱落事故発生件数

	R2	R3	R4	R5	R6
東北管内	43	45	54	41	36
山形県	9	9	14	4	9

出典：自動車事故報告規則に基づく報告書及び自動車メーカーからの報告

東北運輸局

大型車車輪脱落事故の発生状況(令和6年度)
「車輪脱着作業後」
1ヶ月以内の発生が半数占める！

- ◇ 東北運輸局管内の令和6年度大型車の車輪脱落事故の発生状況
- ✓ 車輪脱落事故発生件数は36件(前年度比5件減)
 - ✓ 車輪脱着作業後1ヶ月以内に発生したものが18件(50%)
 - ✓ 全て大型貨物自動車によるもの
 - ✓ 左後輪の脱落が35件(97%)
 - ✓ 軽傷人身事故が1件発生(福島県内)
 - ✓ 山形県は9件で東北管内で最多

※大型車：車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス

過去5年間の車輪脱落事故発生件数

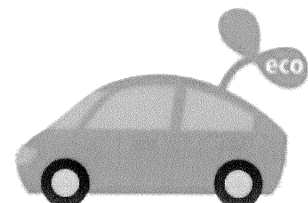
	R2	R3	R4	R5	R6
東北管内	43	45	54	41	36
山形県	9	9	14	4	9

出典：自動車事故報告規則に基づく報告書及び自動車メーカーからの報告

11月はエコドライブ推進月間です!!
「地球と財布にやさしい」
エコドライブを始めよう!
エコドライブ普及連絡会

警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省が構成するエコドライブ普及連絡会は、行楽シーズンであり自動車に乗る機会が多くなる11月を「エコドライブ推進月間」として、シンポジウムや全国各地のイベントなどを通してエコドライブの普及・推進を図っています。

エコドライブとは、燃料消費量やCO2排出量を減らし、地球温暖化防止につなげる「運転技術や心がけ」です。ゆくり発進・ゆくり停止、十分に車間距離をとることなど



～エコドライブ10のすすめ～

1. ふんわりアクセル「eスタート」
2. 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
3. 減速時は早めにアクセルを離そう
4. エアコンの使用は適切に
5. ムダなアイドリングはやめよう
6. 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
7. タイヤの空気圧から始める点検・整備
8. 不要な荷物はおろそう
9. 走行の妨げとなる駐車はやめよう
10. 自分の燃費を把握しよう

- ① 作業日程及び作業時間
- さい。
- 大型車の使用者の方は、次の点に留意して、車輪脱落事故防止に努めてください。

防ごう 大型車の車輪脱落事故

おとさない

点検整備

適正締付

清掃交換

給油

いちにも一度はゆるみの点検

警察庁は、令和7年度秋の全国交通安全運動期間中(9月21日から9月30日)の交通事故発生状況を公表しました。

死者数は80人で前年の運動期間中より6人(8.1%)増加しました。このうち、65歳以上の高齢者は41人で、全体に占める割合は51.3%となっています。

状態別では、自動車乗車中が27人(全体の33.8%)、歩行中が22人(同27.5%)、自転車乗用中が10人(同12.5%)、二輪車乗車中が21人(同26.3%)などとなっています。歩行中死者22人のうち14人が高齢者でした。

県内では運動期間中の人身事故発生件数は67件(前年同期比10件増加)、死者数はゼロ(同ゼロ)、負傷者数は82人(同17人増加)でした。

警察庁は、令和7年度秋の全国交通安全運動期間中(9月21日から9月30日)の交通事故発生状況を公表しました。

死者数は80人で前年の運動期間中より6人(8.1%)増加しました。このうち、65歳以上の高齢者は41人で、全体に占める割合は51.3%となっています。

状態別では、自動車乗車中が27人(全体の33.8%)、歩行中が22人(同27.5%)、自転車乗用中が10人(同12.5%)、二輪車乗車中が21人(同26.3%)などとなっています。歩行中死者22人のうち14人が高齢者でした。

県内では運動期間中の人身事故発生件数は67件(前年同期比10件増加)、死者数はゼロ(同ゼロ)、負傷者数は82人(同17人増加)でした。

期間中の交通事故発生状況

区分	年	令和7年(2025年)	令和6年(2024年)	前年同期比	
				増減数	増減率
交通事故件数		7,506	7,087	419	5.9%
死者数		80	74	6	8.1%
(内高齢者)		(41)	(39)	(2)	(5.1%)
負傷者数		8,850	8,478	372	4.4%

「マイカー点検フェスティバル2025」を開催

県自動車適正管理推進協議会

山形県自動車適正管理推進協議会は、10月18日（土）と19日（日）の2日間、山形市の国際交流プラザ（山形ビッグウイング）において「マイカー点検フェスティバル2025」を開催しました。

このフェスティバルは、東北運輸局山形運輸支局の後援、独立行政法人自動車技術総合機構山形事務所、軽自動車検査協会山形事務所の協力のもと協議会加盟の自動車関係13団体が主催し、マイカーの点検整備の必要性等を啓発するとともに、自動車使用者における保守管理意識の高揚及び環境問題への関心を高めることを目的として、山形県主催の「やまがた環境展2025」と同時開催したものです。

マイカーの無料点検や相談、子供免許証の発行、エコカーのペーパークラフト作成体験などのブースを設置して行われたほか、県内の図柄ナンバークラフトや自動車の新旧部品の展示も行われました。

マイカー無料点検ではエンジンオイルや冷却水点検、ウインドウオシナー液の残量や噴射状態点検、タイヤの空気圧や電圧などの点検、灯火類の点検など14項目について点検を実施し、自動車ユーザーに点検結果に基づいたアドバイスをを行い、日常点検の重要性について理解を深めていただきました。